

JNSA前線基地としての 西日本支部活動

日本ネットワークセキュリティ協会
顧問 西日本支部長 井上 陽一



2000年4月の任意団体設立時からJNSAに参加させて戴き、翌年5月に特定非営利活動法人(NPO)の認可を取得したのを機に、前線基地としての西日本支部を発足し、以降ネットワークセキュリティに関する啓蒙・啓発を中心に活動を実施して来ました。

しかし、設立後の5年間における支部の活動は定期的にセミナーを開催、本部の調査研究成果の紹介を通じて、最新の情報セキュリティ技術及び情報セキュリティへの脅威に関する情報提供を行なう事が主な活動であり、地域の特性を支部独自の視点から発進するものではありませんでした。事実、支部長と言う大役を戴きました私自身も東京勤務が大半を占め、西日本支部活動に専念できる状態にはありませんでした。

この間、社会的問題として企業に説明責任が求められる情報流出事件が相次いで発生し、情報セキュリティを取り巻く環境や意識の大きな変化とともに、情報セキュリティの確保が不正を未然に防ぐ仕掛けとしてますます重要視されると共に、最近では内部統制と関連してビジネスプロセスを支える一つの構成要素として、ITサービス・ライフサイクル管理が重要視されるようになっていきます。

関西を取り巻く環境面では、東京一極集中から地方に主体性を持たせる地方分権化構想としての道州制の提案が昨年浮上しました。首都の代替機能を大阪梅田北ヤードに持たせる積極案も飛び交い、八つの道州制候補地域の中での関西の存在をより強く特色づけた新たな挑戦の意気込みを感じると共に、梅田北ヤード実現と共に大阪における情報セキュリティの役割はますます必要不可欠なものになるものと考えられます。

このような変化の中で、私自身にも変化がありました。昨年5月に第一線を退き、Uターンで故郷の兵庫県に戻り、晴耕雨読の日々を続ける事となりました為、東京に対抗するわけではありませんが、西日本支部を変えたい！西日本支部らしい、大阪らしい活動をしたい！と思う気持ちが私の心の中に日ごとに高まってきました。

そして今こそ、専門技術を持つ中小企業の集積地である大阪の情報セキュリティ水準向上に資する時と考え、ITの活用を前提とした情報セキュリティチェックシートの作成・アンケート・ヒアリング活動を通して、中小企業の実態を探りあて、地域の声として発信する事で、前線基地としての使命を果たしたいと行動を開始しました。

おかげさまで、その思いと行動が評価されたのでしょうか。近畿経済産業局殿のメンバーへの参画や独立行政法人 情報処理推進機構殿(IPA)が設置された中小企業の情報セキュ

リティに関する研究会に参画させて戴くなど地域ベースでの産官共同活動の幅も広がっており、本部に比べますと数少ないメンバーではありますが、地域を思う代弁者として積極的な活動に取り組んでいる所です。

JNSAの活動や成果は、国際的にも国内的にもますます重要性を増してきていると考えられます。私も微力ながら支部長として、JNSA並びにセキュリティ業界発展に尽力して行きたいと考えておりますので、今後ともJNSA活動・支部活動にご支援を戴けるようお願い申し上げます。